



小角田前遺跡の住居跡検出状況(北から) 手前が国道17号バイパス(上武道路)。



小角田下遺跡から出土した墨書土器(10世紀) ※『和名類聚抄』(平安時代中頃)にある新田郡6郷のうちの「淡甘」は、「たこう」とされ、現在も「高尾」の地名があり、高尾の地を「淡甘郷」にあてる説がある。

古墳時代の豪族居館跡



古墳時代の豪族居館跡は、南側の谷、北東側の旧早川、北西側の湿地という自然地形を利用して、台地を分断するように2本の溝を掘り、平面形は五角形状をしています。規模は、南辺約105m(谷)、東辺約60m(溝)、北東辺約110m(旧早川流路)、北西辺約90m(湿地)、西辺約70m(溝)です。西辺の溝は、細長い台地中央部の最も狭い場所を、東西に分断するように掘られた、張り出し部を持つ直線部約70mの溝です。北側部分において台地縁辺部に沿うように、北東方向に鈍角に曲がり、だんだん浅くなり、約30m先の湿地際で壁の確認ができなくなります。規模は、幅約4m、深さ約1mであり、1回掘り直しが確認できました。居館跡の時期は、溝からの出土遺物と土層断面の状況から、5世紀後半と6世紀初頭の2時期が想定できます。



豪族居館跡の西辺の堀跡(上が北)



豪族居館跡の西辺の掘出土土器群(5世紀後半)



豪族居館跡の西辺の掘出土土器群(6世紀前半)

太田市教育委員会 文化財課
〒370-0495 群馬県太田市粕川町520
TEL.0276-20-7090 FAX.0276-52-6080
印刷 平成22年2月

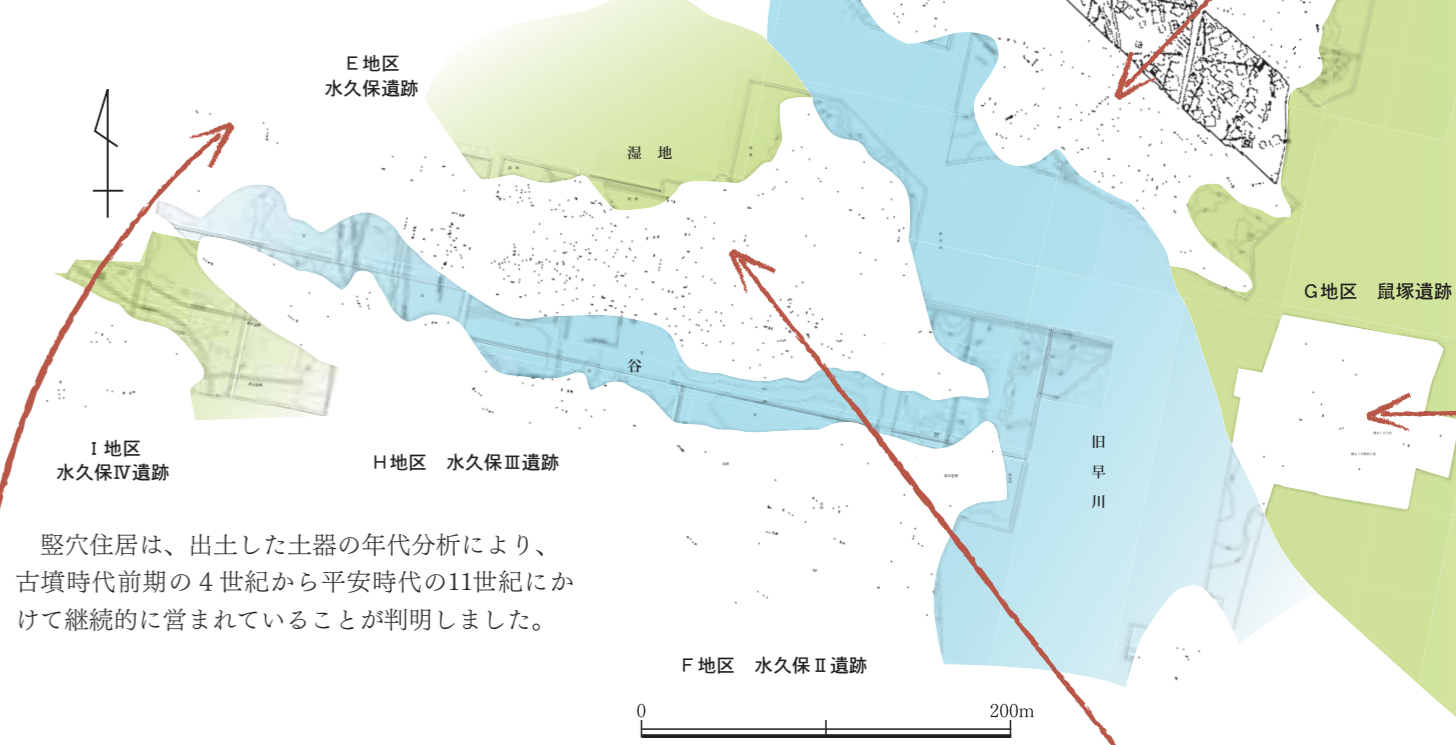


おじまこうぎょうだんちいせき 尾島工業団地遺跡

歌舞伎遺跡・小角田下遺跡・小角田前遺跡・水久保遺跡
水久保II遺跡・水久保III遺跡・水久保IV遺跡・鼠塚遺跡

尾島工業団地遺跡の概要

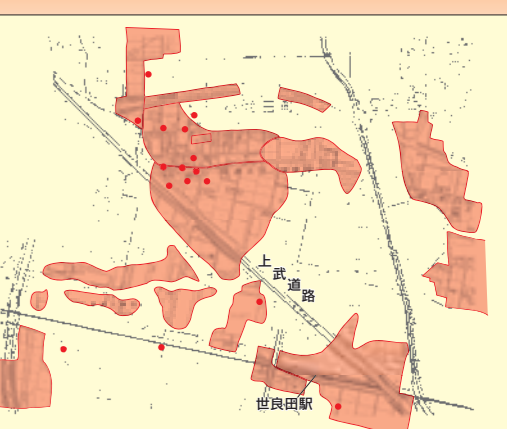
尾島工業団地遺跡は、太田市世良田町・小角田町に所在し、早川と石田川の間に位置する沖積地を挟んだ複数の台地上に立地します。1983年から1985年にかけて尾島工業団地の造成に伴い、尾島町教委と県企業局から成る尾島工業団地遺跡調査団が発掘調査しました。調査面積は、18haに及びます。遺跡は、台地ごとに歌舞伎遺跡・小角田下遺跡・小角田前遺跡・水久保遺跡・水久保II遺跡・水久保III遺跡・水久保IV遺跡・鼠塚遺跡などに分かれます。検出された主な遺構は、縄文時代の土坑4基、古墳時代の竪穴住居跡683軒・古墳3基(前方後円墳1基・円墳2基)・豪族居館跡1箇所、奈良時代の竪穴住居跡149軒、平安時代の竪穴住居跡158軒、古墳時代から平安時代の掘立柱建物69棟、時期不明の竪穴住居跡158軒のほか天明3年(1783)の浅間A軽石に覆われた江戸時代の水田、早川の旧流路も確認されています。



竪穴住居は、出土した土器の年代分析により、古墳時代前期の4世紀から平安時代の11世紀にかけて継続的に営まれていることが判明しました。



水久保遺跡から検出された巨大な掘立柱建物跡(北西から)



小角田前遺跡(上武道路分)

C地区 小角田前遺跡

D地区 小角田前遺跡

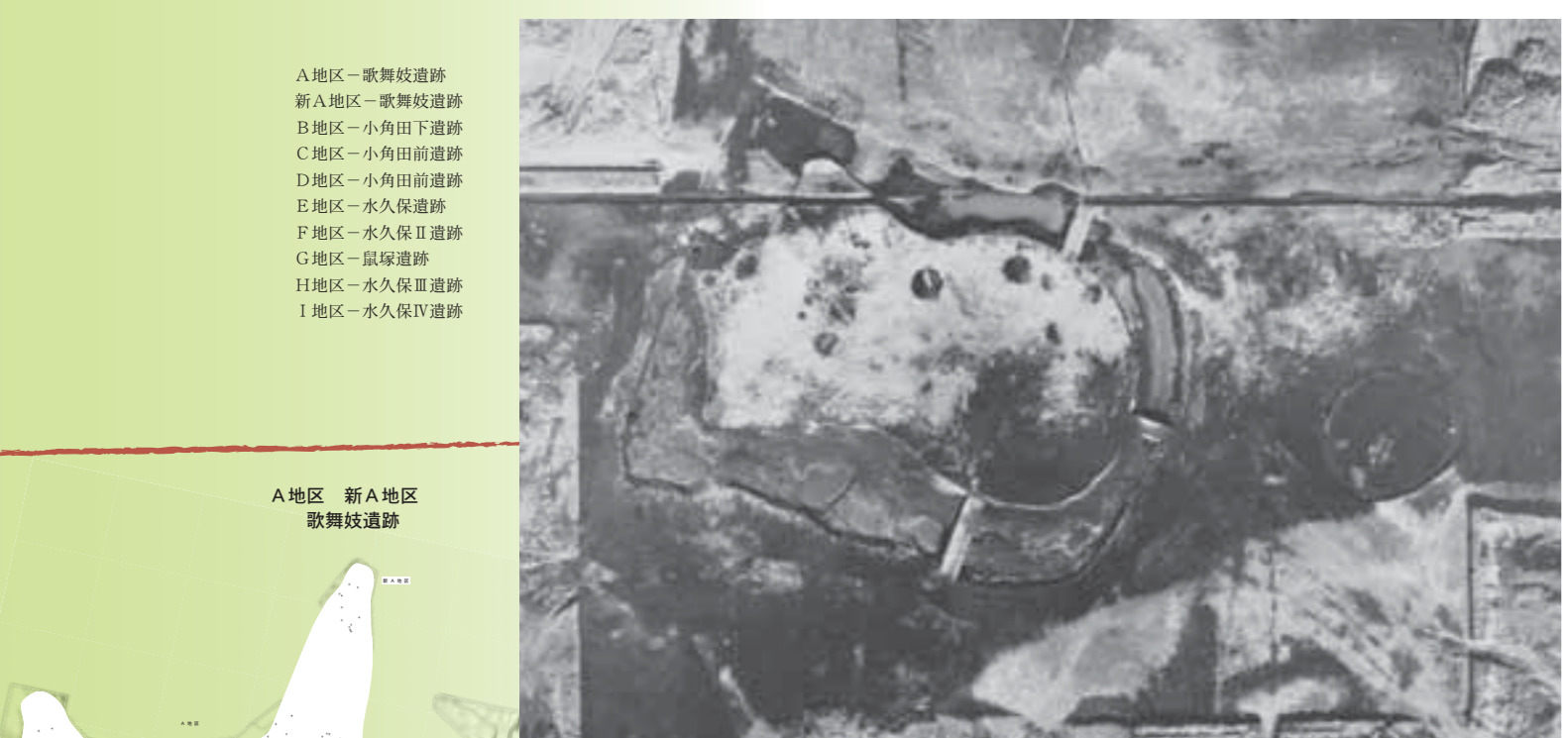
E地区 水久保遺跡

F地区 水久保II遺跡

G地区 鼠塚遺跡

H地区 水久保III遺跡

I地区 水久保IV遺跡



歌舞伎遺跡(上武道路分)



古瀬戸水滴(14世紀) 明確な中世以降の遺構は検出されていないが、若干の中世の遺物が出土している。

歌舞伎遺跡の住居跡検出状況(上が北) ・下は東武伊勢崎線世良田駅。 ・右上は国道17号バイパス(上武道路)。



水久保遺跡の9世紀後半の住居跡から出土した線刻土製紡錘車「矢田衆人即口矢田公子口字口」

水久保遺跡から検出した古墳時代の豪族居館跡の張り出し部(北西から)

